2025年度市大生チャレンジ事業一覧

採択件数　9件（以下のとおり）

	代表者	構成員	協働・連携する外部の団体等	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	国際学部3年 伊藤　綾乃	4名 ・国際学部3年　伊藤　綾乃（代表者） ・国際学部3年　駒田　涼 ・国際学部3年　砂田　優衣 ・国際学部3年　西村　唯花	・三篠公民館 ・株式会社フレスタ	【継続2年目】 食を通じた国際理解	【目的】 ・イベントを通じて世界各国の料理を食べながらその国の文化などを学び、それぞれの国について考え理解を深めてもらう。 ・公民館などの地域の団体と連携を取りながら活動を計画、運営することで、より地域に根差した、持続的な場を提供としていく。 ・前年度の反省を活かし、ワークシートの作成や小学生だけでなく中学生を対象としたイベントの企画をし、幅広い世代に国際交流の場を提供する。 【概要】 ・食を通じて世界の言葉や文化に触れてもらい、国際交流を経験するためにイベントで子どもたちと一緒に調理・食事を行う。 ・活動によって学校で体験することのできない経験を子どもたちにしてもらうことで、グローバルな視野を持つための教育活動の一環となる ・自分たちが行った活動をプロジェクト期間が終了した後も継続できるようにするために、地域に根差した活動をする。	地域共創センター 特任准教授 平尾　順平
2	芸術研究科 博士前期2年 Jung Tae Yong （ジョン・テヨン）	6名 ・芸術研究科博士前期2年　Jung Tae Yong（代表者） ・芸術学部4年　上田　和 ・芸術学部4年　Jo EunBi ・平和学研究科博士後期3年　Lee EonYong ・国際学研究科博士前期2年　Kim DanHee ・情報科学部4年　Hong SeokWon		広島100	【目的】 広島市立大学の学生や空間、デザイン、都市再生、建築、まちづくりに関心を持つ市民が参加し、地域のさまざまな場所や小さな空間を観察することで、普段見過ごされがちな日常の風景に新たな視点を提供することを目的とする。 【概要】 「小さな変化で都市の多様な空間を変える100のアイデア」を掲げて取り組む都市再生・まちづくりプロジェクトです。オランダの「ロッテルダム100」や韓国の「光州100」に着想を得て、地域資源の再発見と活用方法の提案を目指します。地元市民団体と連携し、日常的な地域空間の観察や住民アンケートを通じて意見を収集。デザインの力を活かし、見過ごされがちな風景に新たな価値を見出して可視化・共有します。学生による地域への積極的な関わりを通じて、地域社会の活性化と新たな視点の創出を図ります。	芸術学部 教　授 吉田　幸弘 芸術学部 准教授 藤江　竜太郎
3	芸術学部3年 橋本　みなみ	5名 ・芸術学部3年　橋本　みなみ（代表者） ・芸術学部3年　慶長　真希 ・芸術学部3年　児玉　帆乃香 ・芸術学部3年　嘉屋　歩美 ・芸術学部3年　手島　英世		呉市の廃校でファッションショー	【目的】 現在日本では少子化が著しく進んでおり、県内でも田舎とされる地域では廃校が増えていますが、中でも活用用途を募集している廃校が多くあった呉市の廃校で、「子どもと大人をつなぐ」をテーマにした町おこしイベントを企画・開催し地域のコミュニティを活性化させ、世代を超えたコミュニケーションを作りファッションショーとフリーマーケットを軸に、世代間交流が自然に生まれるような企画・空間づくりを行います。また、当日は参加者の反応や運営の記録を蓄積し、今後同様の企画に取り組む人や団体にとっての参考資料や実践モデルとなることを目指します。これにより、他地域での廃校活用のハードルを下げ、地域資源の再発見と継続的な利活用を促進していきます。 【概要】 本企画では、廃校というノスタルジックな空間を活用し、ファッションショーとフリーマーケット、服のリメイクワークショップを組み合わせたイベントを実施します。 このイベントでは、お年寄りが大切に保管してきた“よそ行き”の服に再び袖を通したり、かつての制服を着こなしてみたり、ワークショップでリメイクした服を披露したりすることから、服に宿る記憶や想いを次の世代へと繋げ、服を着る楽しみを共感し合うことを目指します。着られなくなった服が新たな持ち主に出会う場として、また、当時の思い出に触れながら世代を超えた交流が生まれる場として、多くの人にとって特別な時間となるイベントを企画します。	芸術学部 教　授 吉田　幸弘
4	国際学部4年 小倉　楓花	3名 ・国際学部4年　小倉　楓花（代表者） ・情報科学研究科博士前期1年　石井　拓海 ・国際学部3年　西田　楓花	・白い杖SOSシグナルをひろめる会広島	ふうどの庭（風土×food）	【目的】 日本の農業は、後継者不足や収益性の低さなどによる離農がますます深刻になっている。また、伝統的な食文化の消失や食育の欠如など消費者側の問題もある。その結果、自給率が低いにも関わらず、多量の食品ロスを生じるという悲しい状況となっている。 私たちは、自ら農と食の繋がりを体験し、その過程を学生に公開し、地域に話題を提供するなどにより、学内外に持続可能な農業と食文化への理解を深める。 【概要】 1.地域の生産者さんのもとで農作業等を手伝いながら、農業や食材についての知識を深める。 2.同時に、大学内の荒れた花壇を畑として活用し、実践的な農業活動を自分たちでも始める。 3.秋から冬にかけて、大学内で育てた作物や地域の生産者さんから仕入れた食材を使って旬や収穫状況を考慮した上でオリジナルメニューを考案する。 4.また、メニューはこれまでの実践で学んだことや生産者さん・自分たちの想いを表現するものとし、学生食堂で提供できるようイベントを企画する。	芸術学部 講師 長坂　有希
5	国際学部1年 中間　希々花	3名 ・国際学部1年　中間　希々花（代表者） ・国際学部1年　藤岡　奏 ・国際学部1年　白水　いち子	・白い杖SOSシグナルをひろめる会広島	視覚障害者に対する理解を深めるための資料の作成	【目的】 「白い杖SOSシグナルを広める会広島」では、視覚障害者への理解を求めるため、講演活動を行っているが、視力に障害があるため、パワーポイントスライドなどの視覚資料の作成に苦慮されている。このため、私たちが団体の方からお話を聞いて、視覚資料を制作することにより活動を支援する。 子どもから大人まで多くの人に分かりやすい表現にすることを心掛け、視覚障害者への理解を深めたい。 【概要】 ・「白い杖SOSシグナルをひろめる会広島」の講演会時に使う資料（パワーポイント）の作成し、講演会等で活用していただく。 ・子どもにも伝わる表現となるよう工夫し、視覚障害者への理解を深めるきかっけとなる資料を作成する。 ・企業向けの新入社員研修等でも活用していただける資料を作成する。	地域共創センター 特任准教授 平尾　順平

	代表者	構成員	協働・連携する 外部の団体等	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
6	芸術学部1年 雪貞　歩花	3名 ・芸術学部1年　雪貞　歩花（代表者） ・芸術学部1年　木村　彩音 ・芸術学部1年　木原　実花	・株式会社文華堂	被爆80年、再生紙おりづるで次世代へバトンを繋ぐ	【目的】 被爆80年という節目を迎える今、これからの時代を担う若者たちが何も感じることなく日々を過ごしてしまうことに、広島の学生として強い危機感を覚えた。 そこで、年代の近い私たちが主体となり、同世代の高校生と一緒に折り鶴を折りながら、折り鶴が再生紙へと生まれ変わるプロセスや意味を共有するプロジェクトを企画。 この活動を通じて、高校生一人ひとりが「自分にもできることがある」と感じ、再び平和について考えるきっかけとなり、そしてその想いを、折り鶴とともに壁画というかたちで未来に残していく。 【概要】□ ・被爆80年という節目の年に、多くの人々が平和について考え、その願いを行動に移す機会を創出する。 ・小・中学生と比べて、平和学習の機会が減少している高校生に対し、「自分たちに何ができるか」を改めて考えるきっかけを提供する。 ・平和公園に捧げられた折り鶴の再利用プロセスを紹介し、実際に折り鶴を折ってもらうことで、平和への想いと行動を結びつける体験を促す。 ・平和公園で県外、海外の方向けに折り鶴の折り方のワークショップを行い、みなさんに折っていただいた折り鶴を使用し、壁画アートを制作する。 ・壁画アートの制作には高校生などを募集し、一緒に制作する。 ・折り鶴には株式会社文華堂さんの「おりづる再生紙」を使用する。	芸術学部 准教授 岩崎　貴宏
7	芸術学部1年 伊藤　由衣	5名 ・芸術学部1年　伊藤　由衣（代表者） ・芸術学部1年　別府　文 ・芸術学部1年　秋山　愛乃 ・芸術学部1年　中曽　芽衣 ・芸術学部1年　小野内　陽菜	・島根県邑智郡美郷町	バリ島（マス村）との交流を通じたまちづくり・地域おこし	【目的】 島根県美郷町はバリ島のマス村と友好提携を締結しており、バリのアートを軸にしたまちづくりを進めている。その一環として、広島市立大学の芸術学部に協力を要望している。私たちが次のような活動をすることにより、行政課題の解決や本学の地域貢献の一助としたい。 ・美郷町＝「バリの町」という認識を広め、町の活性化に繋げる。 ・町のシンボルとなるような作品を制作する。 ・ワークショップや作品展示を通して来場者に楽しんでもらう。 ・バリ島の文化のように次世代にも愛される美郷町にする。 【概要】□ ・10月12日（日）に開催されるバリフェスティバルに合わせ、バリ島を意識した作品展示と、子どもたちをターゲットにしたワークショップを行う。	芸術学部 准教授 古堅　太郎
8	芸術学部1年 佐藤　蓮華	17名 芸術学部1年　佐藤　蓮華（代表者） 国際学部1年　大久保　詩菜 情報科学部1年　林田　尚徳 国際学年1年　安倍　幸奈 国際学部1年　木村　香心 国際学部1年　岡野　純 国際学部1年　松田　修 国際学部1年　渡邉　桔平 情報科学部1年　波多野　颯汰 情報科学部1年　立石　琢磨 情報科学部1年　谷口　翔真 芸術学部1年　近藤　菜々子 芸術学部1年　奥村　実央 芸術学部1年　武藤　真由果 芸術学部1年　大木　こころ 芸術学部1年　徳永　百華 芸術学部1年　緒方　桜子	・介護付有料老人ホーム あかしあ大河 ・ゆいりんく広島	彩街（いろまち）プロジェクト ～地域を彩る 魅力的な街づくり～	【目的】 ・高齢者や子どもたちに対して、アートがもたらす感情的・精神的な癒しや安らぎ、前向きな気持ちの促進を図る。 ・壁画制作や完成後の場を通じて、高齢者、不登校の子どもたち、学生、地域の人々が自然に関わり合える機会をつくる。 ・壁画をきっかけに、介護施設「あかしあ大河」が地域の交流拠点となり、誰もが安心して集い、心を通わせられる空間を形成する。また、同じ地域で不登校の子どもたちの居場所づくりに取り組んでいる団体「ゆいりんく広島」との連携も図りながら、この壁画が、利用者や子どもたちにそっと寄り添い、心の支えとなるような存在となることを目指す。 ・学生や地域住民との交流によって、不登校の子どもたちが新たな興味や居場所を見つけ、将来への不安の軽減につなげる。 【概要】 ・制作の過程で、学生と施設利用者の方々がコミュニケーションを重ね、対話を通じて構想やアイデアを練り上げながら、世代間の親交を深める。 ・大学の夏季休暇を活用し、学生が「あかしあ大河」の施設壁面に、四季や懐かしさ、温もりをテーマとした壁画制作に取り掛かる。 ・完成した壁画を囲んで、施設利用者、不登校の子どもたち、そして学生が一堂に会する交流イベントを開催し、アートを通して、世代や立場を越えたふれあいの機会を提供する。 ・施設が地域の交流拠点となるよう、制作過程やイベントの様子はSNSなどを通じて発信し、活動を広く広報する。	芸術学部 教授 志水　児王
9	芸術学部2年 濱本　拓海	6名 ・芸術学部2年　濱本　拓海（代表者） ・国際学部2年　原　幸生 ・国際学部2年　西村　優輝 ・国際学部2年　田中　登偉 ・芸術学部2年　東　拓光 ・芸術学部2年　大槻　拓真	・ワンチーム・れきし紙芝	面で伝える里神楽の歴史と魅力	【目的】 昔から使われてきた神楽面を復元することで、広島神楽の歴史を知ってもらい、広島神楽の発展と継承に繋げる。 【概要】 1. 歴史と面の調査 里神楽の起源や特徴、昔使われていた面（おもて）の形や意味を調べる。 2. 上演風景のイラスト制作 神楽がどのように披露されていたかを絵で表現し、わかりやすく伝える資料を作成する。3. 大学祭での発表・上演 調査結果を展示するブースを出展し、神楽の上演を行う。伝統文化の魅力を広く伝えることを目指す。	芸術学部 准教授 青木　伸介

2024年度市大生チャレンジ事業一覧

採択件数　8件（以下のとおり）

	代表者	構成員	協働・連携する外部の団体等	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	情報科学研究科 博士前期2年 山﨑　陽介	8名 ・情報科学研究科 博士前期2年　山﨑　陽介（代表者） ・情報科学研究科 博士前期2年　梅田　創 ・情報科学研究科 博士前期2年　山根　愛実	・広島市内の自治会および町内会 ・広島市	【継続2年目】 地域活性化のための掲示板アプリCocBanの普及および課題解決能力の検証	【目的】 広島市が掲げている「地域コミュニティ活性化ビジョン」の推進を図ることを目的として2023年度に掲示板アプリ”CocBan”（コクバン）を開発した。 2024年度は実地での運用を展開し、CocBanの有用性の確認し、更なる改良を行う。さらに、広島市内の多くの地域コミュニティにCocBanを導入し、その普及を図ることに加えて、持続可能なアプリの実現のために事業化を推し進めることを目標とする。 【概要】 ・アプリの特徴として、非匿名性（名前のみ公開）のため、住民同士のオフラインの交流を活性化させることができる ・他のアプリと異なり、ユーザー登録も簡単でデジタル機器に不慣れな人でも使いやすい仕様とする ・セキュリティについては、コミュニティ外の方が誤って参加できないような仕組みづくりを行う ・Twitterなどとは異なり実名で登録するため、詐欺などの犯罪が起こりにくい ・各地域の自治会・町内会等への普及を目指す	情報科学研科 教授 弘中 哲夫
2	情報科学部4年 田中　瞬	6名 ・情報科学研究科 博士前期1年　對馬　理向 ・情報科学研究科 博士前期1年　大村　美鶴穂 ・情報科学部4年　田中　瞬（代表者） ・情報科学部4年　梶　友理香 ・情報科学部4年　上田　徳彦 ・情報科学部4年　田中　伶	・ひろしま紙芝居村	【継続2年目】 耳の不自由な人や外国人向けの字幕表示システム	【目的】 紙芝居は、日本特有の文化であり、身近で気軽なパフォーマンスである。これまで耳の不自由な人や外国の人への対応はあまり行われておらず、アドリブ等の字幕表示は難しいという課題がある。 人工知能の技術を使って、日本語や外国語で字幕表示し、ユニバーサルデザインの紙芝居の実現に貢献する。 【概要】 ・ひろしま紙芝居村のメンバーにセリフを読んでもらい、サンプルとして、音声データと文字データを関連づけを行う ・ライブで演者が発する言葉を人工知能に認識させ、文字に変換して表示するシステムを作成 ・声の大きさや感情、話者の表現の違いによって、字の大きさ、字体、字色を変えるなどにも挑戦する ・多言語に翻訳により、外国の方にも紙芝居が分かるようにすることを目指す	情報科学研究科 助教 森　康真
3	情報科学部3年 大倉　秀斗	3名 ・情報科学部3年　大倉　秀斗（代表者） ・情報科学部3年　マニンガス ファン ミゲル ・芸術学部1年　渡邊　弘平		技術と創造の探求！プログラミングと芸術の体験教室	【目的】 現代の中高生にプログラミングを通じたロボットの実装、写真撮影、粘土工作を体験できる機会を提供する。情報技術と芸術のプログラムを通して、問題解決能力と自己表現を身につけることができる。また、プレゼンテーションを通して、参加者にパワーポイント技術やコミュニケーション能力など、将来の自分を考える機会と実践的な学びを得られるイベントを開催する。 【概要】 ・自律制御で未知の迷路を走破するロボットを制御するプログラムを作成し、スクラッチプログラムで論理思考を養う ・カメラの基本操作と写真の構図を学び、実体験をする。物事を違う角度で見ることで、多面的な思考に繋がることが期待できる ・粘土で制作した作品の写真をとり、プレゼンテーションをする。パワーポイントなど、今後使用されるソフトの基本操作が学べる実践的な体験を作る ・呉市の伝統料理である「肉じゃが」を一緒に料理し、地域に対する想いを構築する	情報科学研究科 准教授 目良　和也
4	国際学部3年 田儀　千尋	4名 ・国際学部3年　田儀　千尋（代表者） ・国際学部3年　桑田　朋香 ・国際学部3年　内藤　野々香 ・国際学部3年　中岡　知優	・白い杖SOSシグナルをひろめる会広島	パラスポーツで人生を豊かにする	【目的】 障がい者(チャレンジド)とともに、パラスポーツを通じて交流を行うことで、チャレンジドの方々やパラスポーツへの理解を深め、チャレンジドの方々が知ってもらいたいこと、広めていきたい情報を伝えることができる場を作る。チャレンジドの方々とのつながりを増やし、みんなで課題を解決していくコミュニティをつくり、パラスポーツで「豊かな人生」を実現することを目標とする。 【概要】 ・「チャレンジド」とは障がいを持つ人を表す新しい米語を語源であり、この活動を通してチャレンジドという言葉を広めていく ・白い杖SOSシグナルをひろめる会広島の森井さんと企画の会議や準備を行い、イベントを開催する ・ボッチャ、キンボール、シッティングバレー、ゴールボールなどのパラスポーツを行い、パラスポーツの認知度向上と「チャレンジド」への理解を深める（大学祭での出店） ・実際にパラスポーツを体験することで、観るきっかけや、チャレンジドへの関心を高める ※チーム名の由来は、パラスポーツをenjoyしよう！と、パーリーピーポー（パリピポ）をかけて、パラパリ	国際学部 教授 山根　史博

	代表者	構成員	協働・連携する外部の団体等	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
5	情報科学部3年 岩室　怜弥	5名 ・情報科学研究科 博士前期2年　野田　楓稀 ・情報科学部3年　岩室　怜弥（代表者） ・情報科学部2年　藤田　太陽 ・情報科学部4年　1名	・JA広島市（広島市農業協同組合）	情報技術を用いて農業の担い手不足を支援	【目的】 農作業の継承について、農作業のノウハウをまとめた電子マニュアルとしてプラットフォームを開発し、だれでも正しく農作業を学べ、好きなときに作業を振り返り確認できるようする。これを通して農家の担い手育成を支援し、従業員雇用時に発生する農作業の質に関する問題、農作業の継承問題を解決することを目的とする。また、この活動を外部に発信していくことで広島菜の PR にもつなげる。 【概要】 ・公民館や子ども食堂などで子どもたちと一緒に国際料理を調理する ・さくら寮に住む留学生との交流や食を通じてネイティブの言語や文化に触れながら国際交流を経験してもらい、グローバルな視野を持つための教育活動の一環とする ・留学生に、日本の地域コミュニティの場で日本の文化を理解してもらう ・プロジェクト期間終了後も活動が継続できるようにするため、グローバル食育というシステムを地域に残す ※チーム名の由来は、まるで食卓ごと世界各国を旅するかのように、子どもたちとテーブルを囲みながら、世界の料理やそこから見える文化に親しみたいという思いを込めました。	情報科学研究科 教授 西　正博
6	国際学部2年 伊藤　綾乃	3名 ・国際学部2年　伊藤　綾乃（代表者） ・国際学部2年　砂田　優衣 ・国際学部2年　西村　唯花	・三篠公民館 ・株式会社フレスタ	食を通じた国際理解	【目的】 子ども達と一緒に世界各国の料理を食べながら、その国独自の文化や価値観などを学び、食を通じて国際理解を深めてもらう。 公民館などの地域の団体と連携を取りながら活動を計画、運営することで、より地域に根差した、持続的な場を提供としていく。 【概要】□ ・公民館や子ども食堂などで子どもたちと一緒に国際料理を調理する ・さくら寮に住む留学生との交流や食を通じてネイティブの言語や文化に触れながら国際交流を経験してもらい、グローバルな視野を持つための教育活動の一環とする ・留学生に、日本の地域コミュニティの場で日本の文化を理解してもらう ・プロジェクト期間終了後も活動が継続できるようにするため、グローバル食育というシステムを地域に残す ※チーム名の由来は、まるで食卓ごと世界各国を旅するかのように、子どもたちとテーブルを囲みながら、世界の料理やそこから見える文化に親しみたいという思いを込めました。	芸術学部 准教授 岩崎　貴宏
7	芸術学部4年 若林　出海	5名 ・芸術学部4年　若林　出海（代表者） ・芸術学部4年　渡邊　亜美 ・情報科学部4年　板倉　向志 ・芸術学部　作家数名	・広島市立基町高等学校美術部 ・広島市沼田高等学校美術部	若者の強く生きていける社会を目指す展覧会	【目的】 コロナの期間を経てから、小学生の不登校率が明確に増えてきている。その原因の一つとして生きづらさの低年齢化という要素、昨今では小学生でも教師や友人間での人間関係や学校生活のなかで生きづらさを感じていると言われている。その反動で子どもたちは直感的に不登校の選択を余儀なくされている。私たちが対処すべき問題は不登校などの直接的な問題ではなく子どもたちへの理解を高めることが重要であり、子どもたちへの関心を高め理解を促し、大人と子どもの信頼関係を築く。 そこで、若者たちが強く生きていけるように必要以上に責任を負わず、大人たちと相互に理解して生きていけるよう、このプロジェクトでは美術を通して若者が強く生きていける社会、現代社会における美術の存在意義の向上を目指す。 【概要】□ ・思春期の青少年たちが持つ言語化できない主張や思考や、彼らに強く存在する本質的な思い出などを、学生作家が青少年たちに一対一で取材する。 ・取材から得たものから芸術作品を作ることで青少年たちの自己理解を促し、より良い成長の場を提供する（10-20作品を想定） ・制作した作品を展覧会として発表する。主な集客層を30代から40代の生産年齢の方々を設定し宣伝広報活動を行う	芸術学部 准教授 岩崎　貴宏
8	情報科学部3年 マニンガス ファン ミゲル	4名 ・情報科学部3年　マニンガス ファン ミゲル（代表者） ・情報科学部3年　大倉　秀斗 ・情報科学部3年　山田　会一期 ・芸術学部1年　渡邊　弘平		【30周年記念事業】 企業の廃材を活用した製品化提案	【目的】 企業が処理している廃棄物を再利用して、地域復興に繋がるSDGs配慮の商品の提案をする。 最終目標は企業の廃棄物を再利用した大量生産可能で地域の活性化につながる商品のアイデアの提案ができること。そのためには、中間目標として廃材の特性を最大限に活用できるように研究し、特性にあった商品のモデルを試作する。また、作製したモデルを企業に評価してもらう。 【概要】 ・地元企業からの廃棄物を再利用し、環境にやさしい商品を製作する ・SDGsに基づいた取り組みを行い、持続可能な商品の開発を進める ・最終的な製品を企業が評価する ・地域社会へのポジティブな影響と開発過程や評価結果を広報する ※チーム名の由来は、海外留学生との挨拶からきています。日本社会の基盤や文化を尊重する意味で「自分が日本になる」ことと自分の行動で日本を変える「日本の未来に貢献する」という二つの意味を込めている。	情報科学研究科 教授 李　仕剛

2023年度「市大生チャレンジ事業」一覧

申請件数　5件

採択件数　4件（以下のとおり）

	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	芸術学研究科 博士前期1年 ジョン・テヨン	7名 （芸術学研究科4名） （情報科学研究科1名） （平和学研究科1名） （国際学部1名） （芸術学部1名）	みんなのバス	【目的】 バス停の位置および路線図を利用者の立場から考察し、調査・改善を通じてバスの利便性を向上させ、より豊かな生活環境に貢献する。 【概要】 ・現在の広島バス利用に困難な点を、バス利用者や広電バス担当者へインタビューを行い、現状の課題を把握する ・分析結果をもとに改善場所を選定し、現場を調査・分析し、デザイン制作（案内表示など）を行う ・デザイン案を広電バスの担当者にプレゼンテーションし、フィードバックをもとにブラッシュアップする ・選定したバス停で一ヶ月間社会実験を行う ・実証実験の結果報告としてgallery Gで展覧会を開く	芸術学部 教授 吉田　幸弘 芸術学部 准教授 中村　圭
2	芸術学部 2年 川口　春	4名 （芸術学部4名）	大崎上島・豊島の方々と 地元の素材で草木染め体験	【目的】 救世軍豊浜学寮（児童養護施設）で生活する子ども達に、普段経験することが難しい草木染体験を一緒に行い、「美術」を通じた交流を図り子ども達の思い出作りに貢献する。また、昨年度からの繋がりである大崎上島地区の方々と継続的な活動を行うことで新たな地域課題を探る。 【概要】 ・染物イベント前に、現地での交流会を実施 ・地元ならではの染料素材を子ども達と一緒に探し、地元の自然について知る機会を設ける ・イベントを通じて「美術」の楽しさを伝え、子ども達にとって「美術」が新たな選択肢となるよう興味関心を広げる ・昨年度活動した大崎上島地区の方々との交流を大切にし、継続的な活動を行うことで新たな地域課題を探る機会をつくる ・教師を目指すメンバーもおり、子ども達との触れ合いを通じて美術講師としての指導経験を積む	芸術学部 講師 今野　健太
3	情報科学研究科 博士前期1年 山﨑　陽介	3名 （情報科学研究科3名）	地域活性化のための情報格差をなくす掲示板アプリケーションの開発	【目的】 回覧板+αの機能をもち、「簡単」に操作が可能な掲示板アプリ"CocBan"（コクバン）を開発することで、広島市が掲げている「地域コミュニティ活性化ビジョン」の推進を図る。 【概要】 ・アプリの特徴として、非匿名性（名前のみ公開）のため、住民同士のオフラインの交流を活性化させることができる ・他のアプリと異なり、ユーザー登録も簡単でデジタル機器に不慣れな人でも使いやすい仕様とする ・セキュリティについては、コミュニティ外の方が誤って参加できないような仕組みづくりを行う ・Twitterなどとは異なり実名で登録するため、詐欺などの犯罪が起こりにくい ・各地域の自治会・町内会等への普及を目指す	情報科学研究科 教授 弘中　哲夫
4	情報科学部 4年 リュウ・シャン	3名 （情報科学部3名）	耳の不自由な人や外国の人向けの 紙芝居字幕システム	【目的】 紙芝居は、日本特有の文化であり、身近で気軽なパフォーマンスである。これまで耳の不自由な人や外国の人への対応はあまり行われておらず、アドリブ等の字幕表示は難しいという課題がある。人工知能の技術を使って、日本語や外国語で字幕表示し、ユニバーサルデザインの紙芝居の実現に貢献する。 【概要】 ・ひろしま紙芝居村のメンバーにセリフを読んでもらい、サンプルとして、音声データと文字データを関連づけを行う ・ライブで演者が発する言葉を人工知能に認識させ、文字に変換して表示するシステムを作成 ・声の大きさや感情、話者の表現の違いによって、字の大きさ、字体、字色を変えるなどのことにも挑戦する ・多言語に翻訳により、外国の人にも紙芝居が分かるようにすることを目指す	情報科学研究科 助教 森　康真

2022年度「市大生チャレンジ事業」一覧

申請件数　3件

採択件数　3件（以下のとおり）

	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	国際学部 佐藤　優	5名 （国際学部4名）	小学生とつくりだす絵おと芝居	①小学生に平和の尊さを学ぶ機会を提供する。 ②物語として広島の歴史を広く発信するとともに、 地域で活用してもらいながら後世に残す。	芸術学部 教授 吉田　幸弘
2	芸術学研究科 博士後期課程 トウシキ	9名 （芸術学研究科5名） （芸術学部3名） （芸術学部助教1名）	自然派展-芽出(めで)-	①中山間地域の活性化（廿日市市佐伯地区） ②国際理解の促進 ③スポーツとアートの融合	芸術学部 教授 伊東　敏光 芸術学部 教授 チャールズ・ウォーゼン
3	芸術学部 川口　春	4名 （芸術学部4名）	大崎上島「空き地再生プロジェクト」 ～大串の方々との共同制作を通した 空き地と竹の活用方法の提案～	①島しょ部の地域活性化（大崎上島町大串地域） ②空地を活用した、子ども・大人の憩いの場の整備 ③竹害対策と竹の活用方法の提案	芸術学部 教授 吉田　幸弘

2021年度「市大生チャレンジ事業」一覧

申請件数　4件

採択件数　3件（以下のとおり）

	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	芸術学研究科 土井　紀子	5名 （芸術学研究科1名） （芸術学部4名）	小さな祈りの影絵展2021	広島市内の幼稚園・中学校・高等学校などと連携を図り影絵を制作し、「小さな祈りの影絵展」を開催する。また、協力団体等において巡回展示を行う。	芸術学部 助教 田中　智美
2	国際学部 河本　涼音	5名 （国際学部3名） （芸術学部2名）	ONE DREAM 2021 学生プロジェクト	「世界が良くなるために行う、あなたの2021年のアクション」をテーマに世界各地の人々から2021枚のメッセージカードを募集して制作する作品等を8月5日に展示する。	国際学部 教授 金谷　信子
3	芸術学研究科 上本 佳奈	16名 （芸術学研究科5名） （芸術学部11名）	「リノベーション＋芸術航路―広島市立大学芸術学部有志展―」プロジェクト	呉市大崎下島の御手洗にある古民家の空きスペースを使い、アート作品を展示する。また、使われていない古い納屋の中をリノベーションし、今後イベントスペースとして誰でも有効活用することができるように整備する。	社会連携センター 特任講師 三上　賢治

2020年度「市大生チャレンジ事業」一覧

申請件数　4件

採択件数　4件（以下のとおり）

	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	情報科学部 澤村　駿介	3名 （情報科学研究科1名） （情報科学部2名）	地域特化型『テイクアウト情報共有サイト』プロジェクト	コロナ禍の中、「テイクアウト」という分野において、飲食業界を救えるような地域貢献を目指し、一人暮らしの学生が多く住む横川や安佐南区などの飲食店と学生（客）をつなぐテイクアウト情報共有サイトを制作する。	情報科学研究科 教授 高野　知佐 情報科学研究科 准教授 小畑　博靖
2	芸術学研究科 板井　三那子	2名 （芸術学研究科2名）	三原市の地域再生と継続のための写真展と地域文化史制作	三原市本郷町の風景、生活文化を記録・伝えていくことを目指し、地域住民が生活の様子を写した写真をもとにインタビューやフィールドワークを行い、住民たちの生活の記録を作成し、写真展で住民と一緒に発表する。	芸術学部 教授 チャールズ・ウォーゼン
3	芸術学研究科 大上　ひとみ	3名 （芸術学研究科2名） （芸術学部1名）	訪日外国人と日本人とのコミュニケーションを生み出す風呂敷作り	言葉が通じなくても気軽に外国人と日本人がコミュニケーションをとれるツールとして風呂敷を作成し、国際交流の楽しさや重要性を感じる手助けとなることを目指す。	芸術学部 教授 納島　正弘
4	国際学部 平田　真己	2名 （国際学部2名）	生きづらさを可視化する－ジェンダー・セクシュアリティの視点から－	大学での学びの地域への還元と共通のテーマを学ぶ広島市内の大学生同士の交流の場を作り、ジェンダー・セクシュアリティにまつわる疑問、生きづらさ、違和感を生み出す社会構造に目を向け、言語化・可視化することを目標とし、学生と一般市民が一緒になって考えるワークショップを開催する。	国際学部 教授 ヴェール，ウルリケ

2019年度「市大生チャレンジ事業」一覧

申請件数　8件

採択件数　6件（以下のとおり）

	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	情報科学部 近藤　匠	7名 （情報科学部　6名） （芸術学部　1名）	いちだいプログラミング教室	プログラミング言語を使って絵を描いてもらうなど、コンピュータの仕組みやプログラミングについて小中高生に知ってもらうことを目指す。	情報科学研究科 弘中教授 井上准教授
2	芸術学部 松本　拓也	2名 （芸術学部）	宮島ろくろ発信プロジェクト	パッケージデザインの提案や、写真集などの制作を通して、宮島伝統産業「宮島ろくろ」の魅力を伝えるとともに、伝統継承のきっかけづくりを目指す。	芸術学部 大塚教授 及川教授
3	情報科学研究科 小野　美宙	4名 （情報科学研究科）	RFIDのタグを用いたタイム計測の自動化	地域の体育協会からの依頼を受け、新春ロードレース大会でのタイム計測の自動化を目指す。	情報科学研究科 馬場講師
4	芸術学研究科 細萱　航平	2名 （芸術学研究科）	「災禍とモノと物語り」展における市民向けシンポジウムと震災遺構のVR体験の同時開催事業	シンポジウムと東日本大震災の遺構の3Dデータアーカイブ VR体験会を通して、災害の記憶の継承に関わる市民活動に貢献することを目標とする。	芸術学部 伊東教授
5	芸術学部 浅井　優人	15名 （芸術学部）	芸術、文化の更なる普及と、地域の魅力の再発見	制作した作品を八丁堀や横川地区等へ持ち出して写真撮影し、その写真集を配布することで、芸術に触れる機会を提供し、地域の魅力を伝えることを目指す。	芸術学部 丸橋助教
6	国際学部 森脇　美鈴	3名 （国際学部　2名） （情報科学研究科　1名）	とびしま海道のグルメ旅の情報発信	少子高齢化の進む島しょ部のグルメ情報をまとめたアクセスマップを作成するとともに、観光案内所等に設置し、観光振興に貢献することを目標とする。	社会連携センター 三上特任助教

2018年度「市大生チャレンジ事業」一覧

申請件数　10件

採択件数　6件（以下のとおり）

	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	情報科学部 林　侑香里	7名 （情報科学部　7名）	広島の中学・高校生を対象としたプログラミング教室	広島の中学・高校生にコンピュータの仕組みやプログラミングについて知ってもらい、日本の将来を担う立派なIT技術者を教育することを目的とする。 こどもパソコンIchigoJamという自分で組み立てのできる小型パソコンの自作の体験とIchigoJamを用いたBasic言語によるプログラミングの体験講座に加え、Linuxボード RaspberryPiを用いてチャットアプリの作成やWebカメラと連携させて画像処理や電子工作を行う。	情報科学研究科 弘中教授 井上准教授
2	芸術学部 川口　綾乃	25名 （芸術学部　22名） （情報科学部　2名） （写真映像教務員　1名）	横川プロジェクト	横川を題材にそこに住む人々やその土地の活気ある風景、建造物など横川独自の背景を生かし、学生の視点から横川の魅力を再発見し、発信する。横川という町は機能的でシンプルな近年の新しいデザインとは異なり、横川に息づく人やモノ、それぞれの時間が積み重なって構成されている町である。特に横川の建造物やそこに住んでいる人々にはそれらが顕著に表れており場所によっては隣り合う建物同士を比較して互いに時代錯誤な感覚を得ることも少なくない。そういった横川にしかない感覚を作品として昇華させることでその作品を目にした人々に新たな視点を発信し、横川を知らない人もすでに知っている人も含め、横川という魅力ある町に興味を持ってもらう機会を提示する。横川をテーマに作品を制作しそれらを発信する手段として作品をまとめた雑誌を制作。作品制作のの為の取材や撮影などを地域と協力していくことで新しい環境での多面的な問題解決力を身につける。同時に学生のコミュニケーション能力、技術向上を目指す。成果物は大学祭で販売。横川では雑誌の委託販売、展示を行う。	芸術学部 吉田教授
3	情報科学研究科 藤井　信吾	21名 （情報科学研究科9名） （情報科学部12名）	市大生によるパソコンなんでも相談室2018	パソコンやその関連機器に関する初歩的な悩みや疑問点の解決を行いながら、大学で学んでいる情報科学に関する知識を市民や社会に還元するとともに、自身のコミュニケーション能力を向上させる。 今年度からは、この取り組みについてよりたくさんの人に知ってもらうため、学内の学生に周知し、興味を持ってもらうことも目標としている。	情報科学研究科 小林教授 齊藤助教 脇田助教
4	情報科学部 武内　亮	2名 （情報科学部2名）	ヒロシマピースキャンプ2018	平和記念日における国内外からの来訪者に、広島市市民局市民活動推進課と協働で簡易な宿泊場所を広島市立大学の運動場に設置し、「ヒロシマピースキャンプ実行委員会」として利用者や市民による核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた新たな意見交換・交流の場を提供することを目的とする。 本事業に参加する学生ボランティアスタッフ(広島県内の大学生等)を募集し、利用者、市民及びボランティアスタッフの交流を図るため、イベントの企画運営及び環境の整備を行う。	国際学部 井上教授
5	情報科学科 山﨑　樹生	5名 （情報科学科　5名）	情報化社会に対する興味を深めよう	今後の未来を担う（になう）高校生にIT分野にも興味を深めてもらうことを目的とする。まず、高校生の情報化社会に対する考えを調査するために8月5日のオープンキャンパスでアンケートを実施する。次に企業へ訪問し、アンケート結果と自分たちの考えを伝えて情報化社会について話し合う。最後にアンケート実施と企業との話し合いで学んだことをまとめ、10月8日のライブキャンパスで発表する。ライブキャンパスでの発表が厳しい場合、近隣の高校で発表する。以上の事を実施することで広島の高校生を対象に情報化社会に対する興味を深めてもらう。	情報科学研究科 河野准教授
6	芸術学部 塚本　結	10名 （芸術学部　10名）	写真作品とカメラのワークショップを通した基町アパートの地域活性化	現在広島市中区にある基町住宅地では少子高齢化に伴う地域コミュニティーの活力の低下の問題に直面している。本プロジェクトは基町住宅地区の方々にに今の基町を写真作品というフィルターを通して観覧してもらうと共に外部の人に基町の魅力を知ってもらうことによって、コミュニティーの活性化を目的としている。そのためには基町アパートとは大高正人が設計した広島のシンボルの一つとされる貴重で美しい建造物であることを再認識してもらうことが重要であり、高度なカメラ技術、表現方法を研究し写真活動を勢力的に行っている広島市立大学の学生や交換留学生、また広島で活動している作家の方に展示してもらう。そして、事前に地域に住む子供たちと基町の写真を撮るワークショップを行い、一緒に展示することでよりリアルでディープな作品を集めた展示をしたいと考える。一方で子供達に写真を撮る楽しさを知ってもらいカメラを通じて学生と地域の人とのコミュニケーションをとるキッカケを作る。	芸術学部 ウォーゼンチャールズ教授 南教授

2017年度「市大生チャレンジ事業」一覧

申請件数　8件

採択件数　4件（以下のとおり）

	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	情報科学研究科 新井　敦士	19名 （情報科学研究科10名） （情報科学部9名）	市大生によるパソコンなんでも相談室2017	パソコンやその関連機器に関する初歩的な悩みや疑問点の解決を行いながら、大学で学んでいる情報科学に関する知識を市民や社会に還元するとともに、自身のコミュニケーション能力を向上させる。 今年度からは、この取り組みについてよりたくさんの人に知ってもらうため、学内の学生に周知し、興味を持ってもらうことも目標としている。	情報科学研究科 小林教授 齊藤助教 脇田助教
2	情報科学部 家平　和輝	7名 （情報科学研究科1名） （情報科学部6名）	広島の中学・高校生を対象としたプログラミング教室	広島の中学・高校生にコンピュータの仕組みやプログラミングについて知ってもらい、日本の将来を担う立派なIT技術者を教育することを目的とする。 こどもパソコンIchigoJamという自分で組み立てのできる小型パソコンの自作の体験とIchigoJamを用いたBasic言語によるプログラミングの体験講座に加え、Linuxボード RaspberryPiを用いてチャットアプリの作成やWebカメラと連携させて画像処理や電子工作を行う。	情報科学研究科 弘中教授 井上准教授
3	国際学部 角田　大河	4名 （国際学部4名）	広島県の学生を対象としたビジネスコンテストの開催	広島県の学生を対象に、ビジネスコンテストの開催を行い広島県のイノベーションにおけるレベルを向上させ、地域創生に貢献することを目的とする。 企業や地元の金融機関にも協力していただき、投資手続き等の環境の構築にも努め、実際に優秀な事業を始めるための運用資金等の獲得も考えている。	国際学部 李教授
4	情報科学部 武内　亮	3名 （情報科学部2名） （芸術学部1名）	ヒロシマピースキャンプ2017	平和記念日における国内外からの来訪者に、広島市市民局市民活動推進課と協働で簡易な宿泊場所を広島市立大学の運動場に設置し、「ヒロシマピースキャンプ実行委員会」として利用者や市民による核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた新たな意見交換・交流の場を提供することを目的とする。 本事業に参加する学生ボランティアスタッフ(広島県内の大学生等)を募集し、利用者、市民及びボランティアスタッフの交流を図るため、イベントの企画運営及び環境の整備を行う。	国際学部 井上教授

2016年度「市大生チャレンジ事業」一覧

申請件数　8件

採択件数　6件（以下のとおり）

	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	芸術学部 室星　理歩	5名 （芸術5名）	伝統的板目木版画技法による宮島観光マップ製作のための調査研究	COC+プロジェクトの一環として、来年度予定している板目木版画技法による「宮島すごろく観光マップ」の製作のため、板目木版画および双六の調査、研究を行う。 またこれらにおいて得られた知識や経験を観光マップ作りに生かすと同時に、宮島の地域活性化つなげることとする。	芸術学部 釣谷講師
2	情報科学研究科 綱本　勇樹	17名 （情研究科8名） （情9名）	市大生によるパソコンなんでも相談室2016	パソコンやその関連機器に関する初歩的な悩みや疑問点の解決を行いながら、大学で学んでいる情報科学に関する知識を市民や社会に還元するとともに、自身のコミュニケーション能力を向上させる。 今回は、以下の点にチャレンジする。 ・ニーズに応じた内容のお役立ち講座を開設し、講座内容のさらなる充実を目指す。 ・相談室の雰囲気などが分かるように動画配信など広報のさらなる充実を図る。	情報科学研究科 小林教授 齊藤助教 脇田助教
3	芸術学部 板井　三那子	33名 （芸術31名） （情報2名）	地域交流と社会貢献を兼ねたランドアートプロジェクト	地域交流と社会貢献を兼ねたランドアートプロジェクトを計画している。本学の近隣にある竹林（大塚上町）の整備をおこないながら、伐採された竹を使って作品の制作をおこなう。協力してくれるスタッフ（学部生）に竹林の整備や制作に参加してもらい、より多くの学生が地域の方と交流を深めていってもうらう内容とする。留学生には日本の工芸として昔から使われてきた竹林に触れてもらいたく、外国人も参加しやすい環境をつくることに努める。より多くの人たちに実際に竹林に入ってもらい、アートを通して地域との関わりを深め、社会問題である竹害について考えていきたい。	芸術学部 前川教授 土井非常勤教員
4	芸術学部 中谷　悠久	11名 （芸術11名）	地域商店街活性化への貢献	地域の文化発信拠点としての横川シネマに地域で生活する学生がコンテンツを提供することによって地域文化の発展に貢献したいと思う。	芸術学部 笠原教授
5	情報科学部 家平　和輝	4名 （情報4名）	広島の中学・高校生を対象としたプログラミング教室	広島の中学・高校生にコンピュータの仕組みやプログラミングについて知ってもらう。また、日本の将来を担う立派なIT技術者を教育することを目的とする。こどもパソコンIchigoJamという自分で組み立てのできる小型パソコンの自作の体験とIchigoJamを用いたBasic言語によるプログラミングの体験講座を行う。	情報科学部 弘中教授
6	情報科学部 武内　亮	6名 （情報4名） （芸術2名）	ヒロシマピースキャンプ2016	広島市市民局市民活動推進課と協働で、８月６日の平和記念日に来広する国内外からの来訪者に対して、無料の簡易キャンプサイトを提供するとともに安全で快適な運営を行う。（１）キャンプサイトの整備、貸出用テントの準備（２）当日の受付及び見回り等	国際学部 井上教授

2015年度「市大生チャレンジ事業」一覧

申請件数　7件

採択件数　4件（以下のとおり）

	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	情報科学研究科 岡田　淳司	21名 （情研究科11名） （情10名）	市大生によるパソコンなんでも相談室2015	パソコンやその関連機器に関する初歩的な悩みや疑問点の解決を行いながら、大学で学んでいる情報科学に関する知識を市民や社会に還元するとともに、自身のコミュニケーション能力を向上させる。	情報科学研究科 小林教授 齊藤充行助教
2	芸術学部 渡邉　藍子	3名 （芸3名）	ひろしま発人材集積促進プロジェクト(デザイン分野) -Happyシマす。OK Islandプロジェクト-	瀬戸内の離島である"大崎上島"を舞台とした20ケ月のデザインプロジェクト。 様々な分野のデザイナーやクリエイター島で活動されている方々と交流しながら、地域に根差したデザインの提案、実現に取り込んでいる。地方で顕在している人口減少、コミュニティの衰退、地域産業の衰退といった様々な課題を解決する事を目的に、イベントのデザイン、暮らしのデザイン、産品のデザインにより、地域の人々との交流を図る。	芸術学部 藤江講師
3	情報科学部 武内　亮	8名 （情4名） （国1名） （芸3名）	ヒロシマピースキャンプ2015	広島市市民局市民活動推進課と協働で、8月6日の平和記念日に来広する国内外からの来訪者に対して、無料の簡易キャンプサイトを提供する。 キャンプサイト利用者や市民による核兵器廃絶や世界恒久平和の実現に向けた交流の場を創出する。	国際学部 井上泰浩教授
4	国際学部 中田　千夏	23名 （国14名） （情7名） （芸2名）	３学部生コラボレーションによる禁煙パフォーマンス ー未成年の未喫煙者のためにー	喫煙習慣をもつに至らない未成年者(高校生～未成年大学生)を対象に、同世代の大学生自身がたばこの有害性を学び、それを同世代にアピールする手法でプレゼンテーションをする。 それを通じて、本学を拠点とした禁煙化促進へ社会貢献を行う。 ･8/2　オープンキャンパス、10/12 ライブキャンパス、11月大学祭など、来学する高校生など未成年者と保護者に向けてアカペラコーラス、ダンス、フラッシュモブなどのパフォーマンスを行う。	国際学部 太田教授 山口教授 三村保健師

2014年度「市大生チャレンジ事業」一覧

申請件数　6件

採択件数　6件（以下のとおり）

区分	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	情報科学研究科 菊池　光太朗	18名 （情研究科9名） （情9名）	市大生によるパソコンなんでも相談室2014秋	パソコンやその関連機器に関する初歩的な悩みや疑問点の解決を行いながら、大学で学んでいる情報科学に関する知識を市民や社会に還元するとともに、自身のコミュニケーション能力を向上させる。	情報科学研究科 小林教授 齊藤助教
2	情報科学研究科 北山　翔馬	15名 （情研究科8名） （情7名）	地域における情報リテラシーの向上および情報jモラルの育成	・小・中・高等学校での情報リテラシー向上及び情報モラル育成のための講演活動を行う。 ・サイバー犯罪についての注意喚起のため、ポスター、チラシやWebでの広報活動を行う。 ・企業等に向けて、ウィルス感染についてのデモンスとレーションプログラムを作成する。 ・小学校におけるICT活用支援を行う（昨年度からの継続）。	情報科学研究科 中田教授 島准教授 双紙准教授
3	情報科学部 武内　亮	6名 （情3名） （国3名）	ヒロシマピースキャンプ2014	広島市市民局市民活動推進課と協働で、8月6日の平和記念日に来広する国内外からの来訪者に対して、無料の簡易キャンプサイトを提供する。キャンプサイト利用者や市民による核兵器廃絶や世界恒久平和の実現に向けた交流の場を創出する。	国際学部 井上教授
4	芸術学部 増田　幸美	8名 （芸8名）	広島平和ポスター展	芸術学部デザイン工芸学科視覚造形で課題として制作する平和ポスターを8月6日頃に一般公開する。広島で学ぶ学生が独自の視点や切り口で考える「平和」を多くの人々に伝え、またポスターを目にした人々にも「平和」について考えていただく。	芸術学部 中村講師
5	パイオニアプロジェクト	31名 （芸27名） （国3名） （情1名）	芸術学部 板井　三那子	本学近隣の竹林の拡大問題を解消するために竹を伐採し、また伐採した竹を用いて創作活動を行い、作品を一般に公開する。	芸術学部 前川教授
6	広島市域でのプログラミング技術の普及活動	4名 （情4名）	情報科学部 岩崎　圭太	広島市及びその周辺地域において、プログラミング技術者を講師に迎え、最新技術を利用したプログラミング等の勉強会を、情報系企業の社会人や学生を対象に行う。	情報科学研究科 井上博之准教授

平成25年度「学生による社会貢献型自主プロジェクト支援事業」一覧

申請件数　7件

採択件数　6件（以下のとおり）

区分	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	国際学部 西本　淳一郎	9名 （国際学部9名）	定住外国人支援現場への学生参加	児童の約半数が外国籍である基町小学校区の空き店舗において、PTAが外国籍児童への学習支援を行っていた。しかし、かねてから指導者不足が指摘されていたため、学習支援に参加する。	国際学部 岩田准教授
2	芸術学部 大槻　純子	3名 （芸術学部1名） （国際学研究科1名） （国際学部1名）	学生団体「てくてく」による広島県内への避難者支援プロジェクト	東日本大震災、福島第1原子力発電所の事故により広島県内に避難してきた方に以下の支援を行う。 ・直接支援 農作業、託児、学習支援 ・避難者間のコミュニティづくり 尾道市にあるシェアハウスを参考に、避難者同士の交流の場をつくる	国際学部 湯浅教授
3	情報科学研究科 北山　翔馬	8名 （情報科学研究科2名） （情報科学部6名）	小学校におけるICT活用力の向上 ー広島市立三入小学校におけるICT活用支援ー	ICT（情報通信技術）活用が不十分な三入小学校において、全教員のICT活用力を向上できるよう以下の支援を行う。 ・ICTに関連する操作の問い合わせへの回答、トラブルの解決 ・ICT機器の操作マニュアルの作成 ・ICT機器の活用方法の相談や提案 ・講習会の開催　等	情報科学研究科 島准教授 双紙准教授
4	情報科学部 立本　健司	10名 （情報科学部8名） （芸術学部2名）	安佐南区民まつりへの参加	安佐南区民まつりで、芸術性の高い演劇を地域の方に楽しんでいただく。	情報科学研究科 高橋助教
5	国際学部 矢田貝　栄治	5名 （国際学部4名） （芸術学部1名）	フィリピンのスラムにおける住民の自立支援	フィリピンのセブ島にて住民の自立支援のため　、母子の教育向上のためのアンケート、啓発活動等の活動を行う。 また、現地での活動について写真展を開催し、写真展に訪れる人への啓発活動に繋げる。	国際学部 中島教授
6	国際学部 山本　真由美	3名 （国際学部3名）	Hiroshima　Peace Camp　2013	平和祈念目的の広島訪問者のための臨時キャンプサイトを市立大学の運動場の中に設置し、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた新たな意見交換・交流を行う。	国際学部 柿木准教授

平成24年度「学生による社会貢献型自主プロジェクト支援事業」一覧

申請件数　9件

採択件数　8件（以下のとおり）

区分	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
①	芸術学部 力石　遥	19名 （芸術学部19名）	大型絵画共同制作 −広島市立高須小学校「お月見コンサート」会場装飾として−	高須小学校で行われる「お月見コンサート」において芸術学部の学生と高須小学校の児童により共同制作した大型絵画を展示する。	松尾講師 （芸術学部）
②	情報科学研究科 青山　裕紀	21名 （情報科学部21名）	第6回　パソコン・スマートフォンなんでも相談室（初心者対象）	パソコンにまつわる様々なトラブルの解決や新しい利用法の提案などを行うことによって、大学で学んできた情報科学に関する知識を地域社会へ還元し、貢献する。	小林教授 （情報科学研究科） 齋藤助教 （情報科学研究科）
③	国際学部 畑中　朝子	5名 （国際学部3名） （情報科学部1名） （芸術学部1名）	Hiroshima Peace Camp 2012	「ヒロシマピースキャンプ」の運営 ・キャンプサイトの整備 ・当日の受付・見回り ・スタードームの作成 ・食事の提供 ・音楽ライブ、ミサンガづくり、書道体験、スイカ割り、原爆に関する映画上映等のイベント ・平和記念式典、灯篭流しへの案内　等	井上教授 （国際学部）
④	国際学部 谷口　薫	14名 （国際学部14名）	学生による地域日本語教室への参加	沼田公民館における日本語教室支援 地域の外国人住民と学生の交流。地域国際交流会やふるさと祭りへの参加	岩田准教授 （国際学部）
⑤	国際学部 芳野　佑介	6名 （国際学研究科1名） （国際学部4名） （芸術学部1名）	学生団体「てくてく」による広島県内への避難者支援プロジェクト	東日本大震災、福島第一原子力発電所の事故により広島県内に避難してきた人たちの生活再建やコミュニティづくりの支援	湯浅教授 （国際学部）
⑥	国際学部 亀田　菜摘	5名 （国際学部5名）	あさがお−国を超えた地域貢献活動−	学生と留学生でペアを組み、宮島でおススメの観光プラン等を韓国人をメインとする観光客に提案する。ガイドも行い、独自に作成したガイドブックによりユニークな観光プランを提供する。	金准教授 （国際学部）
⑦	国際学部 赤穴　沙季子	12名 （国際学部12名）	マーケティングの観点からの街づくりプロジェクト	安佐南区役所が主催する「あさみなみまちづくりアイデアコンテスト」への参加 地域と大学の連携及び地域を活性化させる活動の学習を通じて、マーケティングの観点から研究する。	大東和教授 （国際学部）
⑧	国際学部 土井　瑛美香	30名 （ダンス部30名）	安佐南区民祭りへの参加	安佐南区民文化祭りへの参加 昨年度、安佐南区民文化祭りに参加し地域の住民から好評を得た。しかし昨年度は準備期間が短く満足のいくダンスができなかった。今年度はより高い完成度のダンスを披露するために早期に準備を開始し、地域住民へ披露する。	宇野教授 （国際学部）

平成23年度「学生による社会貢献型自主プロジェクト支援事業」一覧

申請件数　6件

採択件数　5件（以下のとおり）

区分	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
①	国際学部 関　友里恵	9名 （国際学部9名）	学生による地域日本語教室への参加	昨年度に引き続き沼田公民館、ひろしま国際センターにおいて日本語指導のボランティアを実施する。また、プロジェクトの一環として、沼田ふるさと祭りなどの地域イベントにゼミとして関わる。	岩田講師 （国際学部）
②	国際学部 平林　典子	4名 （国際学部3名） （芸術学部1名）	サンフレッチェ広島と連携したエコなゴミ回収方法の開発	サンフレッチェ広島、広島ビッグアーチと連携し、以下の活動を行う。 ・サンフレッチェ広島へのプロジェクト概要説明及び協力依頼 ・昨年度企画書の見直し、サンフレッチェ広島及び広島ビッグアーチとのミーティング、再調査 ・作成するゴミ箱の設置場所やデザインの具体化 ・芸術学部とのミーティング：ゴミ回収に関する案内板と新しい回収ボックス製作と設置 ・ポスターとチラシの製作、宣伝 ・設置後の分別状況の調査、報告書作成	山口准教授 （国際学部）
③	情報科学研究科 坂本　信一	22名 （情報科学研究科12名） （情報科学部10名）	第5回　パソコン出前なんでも相談室（初心者対象）	パソコンにまつわる様々なトラブルの解決や新しい利用法の提案などを行うことによって、大学で学んできた情報科学に関する知識を地域社会へ還元し、貢献する。 今年度も、前年度に引き続き交通の便が良く、かつPCの台数やネット環境が整っている「まちづくり市民交流プラザ」で実施する。	小林教授 （情報科学研究科） 齋藤助教 （情報科学研究科）
④	国際学部 土肥　安希乃	13名 （国際学部13名）	広島ピーススタディツアーの企画・実行	8月5日～7日の3日間で、66年前に広島で起きたことを伝え、平和について考え話し合う場を提供する「広島ピーススタディツアー」を開催する。ツアーの具体的内容は、以下のとおり。 〇広島平和記念資料館・公園見学 〇被爆者体験聴講 〇映画を使ったワークショップ、ディスカッション	宇野教授 （国際学部）
⑤	芸術学部 濱永　由佳	5名 （芸術学部3名） （非常勤助教等2名）	温井ダム周辺地域活性化のためのアートプロジェクト	温井ダム周辺地域は、主要観光地となりうる条件を持つ場所であるが閑散とした状況にあり、また、人の往来が遮断されているという問題を抱えている。これを解決するため、「ダムしゃべる」というイベントを、温井ダム近くの公園で行われる「龍姫湖まつり」の日に合わせて開催し、ダムの魅力、ダムのある町、安芸太田町を外へ広める。	吉田教授 （芸術学部）
⑥	国際学部 中島　優	3名 （国際学部2名） （芸術学部1名）	「ヒロシマピースキャンプ」の運営	「ヒロシマピースキャンプ」の運営 ・キャンプサイトの整備 ・当日の受付・見回り ・スタードームの作成 ・食事の提供 ・音楽ライブ、ミサンガづくり、書道体験、スイカ割り、原爆に関する映画上映等のイベント ・平和記念式典、灯篭流しへの案内	大東和教授 （国際学部）

平成22年度　学生による社会貢献型自主プロジェクト事業の採択状況一覧

申請件数　6件
採択件数　5件（以下のとおり）

区分	申請者 （代表者）	実施学生	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
①	国・学 今井　ひとみ	8名 （国･学8名）	学生による地域日本語教室への参加	昨年度に引き続き沼田公民館、ひろしま国際センターにおいて日本語指導のボランティアを実施する。	岩田講師（国）
②	情・研 小鐵　和昭	18名 （情･研11名） （情･学7名）	第4回　パソコン出前なんでも相談室	パソコンにまつわる様々なトラブルの解決や、新しい利用法の提案などを行うことによって、大学で学んできた情報科学に関する知識を地域社会へ還元し、貢献する。今年度は、まちづくり市民交流プラザで実施する。	小林教授（情） 齋藤助教（情）
③	国・学 深尾　尚吾	4名 （国･学3名） （芸･学1名）	「ヒロシマピースキャンプ」の運営	「ヒロシマピースキャンプ」の運営 ・キャンプサイトの整備 ・当日の受付・見回り ・スタードームの作成 ・食事の提供 ・ライブ、ミサンガづくり、書道体験、スイカ割り、原爆に関する映画上映等のイベント ・平和記念式典、灯篭流しへの案内	大東和教授（国）
④	情・研 守田　瞬	3名 （情･研2名） （情･学1名）	モーターの原理と実装実験	将来の理数系学生を増やすため、小学生を対象にモーターのしくみを教え、実際にモーターを動力源とした扇風機を作成する。小学生の夏休み中に実施。	佐野教授（情）
⑤	国・学 兼実　咲江	2名 （国･学2名）	サンフレッチェ広島と連携したエコなごみ回収法の開発	サンフレッチェ広島、広島ビッグアーチと連携し、以下の活動を行う。 ・ビッグアーチを利用する団体が実施するエコ活動の情報集約・発信 ・ゴミ回収ボックスと分別方法の見直し ・ポスターとチラシによる宣伝 ・活動前後の状況を写真によって比較	山口准教授（国）

平成21年度　学生による社会貢献型自主プロジェクト事業の採択状況一覧

申請件数　10件
採択件数　8件（以下のとおり）

区分	申請者 （代表者）	実施学生	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
①	国・学 小西　由華	4名 （国･学3名） （国･研1名）	地域日本語教室への日本語支援とパネル展	沼田公民館、広島国際センターにおける日本語指導のボランティアを行い、活動をもとにパネル展を行う。	岩田講師（国）
②	国・学 宮原　依里	5名 （国･学）	地域高齢者施設や病院等への出張演奏会	広島市内の高齢者施設や病院等を利用している地域住民のもとに出向き、クラシックや唱歌などの演奏会を行い、地域と学生の交流の機会をはかる。	大東和教授（国）
③	国･学 竹田　彩乃	8名 （国･学7名） （国･研1名）	開発と環境 タイでの植林活動・地域住民との交流	NICE日本国際ワークキャンプセンターのグループワークキャンプを利用し、タイでNGO団体Dalaaとの植林を主な活動とし、地域住民との交流、インタビューを行う。	中島教授（国）
④	国・学 脇山　都	2名 （国･学1名） （国･研1名）	イラクの子どもの絵画展	広島市内の会場（カフェパコ大手町）においてイラクの子どもたちが描いた絵や、NoDUという団体が所有する2009年のイラクの様子を写した写真を展示する。５日間の開催でライブやワークショップも予定している。	柿木准教授（国） 湯浅教授（国）
⑤	情･研 高橋　勇登	13名 （情･研5名） （情･学8名）	第3回　パソコン出前なんでも相談室	パソコンにまつわる様々なトラブルの解決や、新しい利用方法の提案などを行うことによって、大学で学んできた情報科学に関する知識を地域へ還元する。第３回目はインターネット利用可能にして、前回対応できなかった新たな質問に対応できるようにする。	小林教授（情） 齋藤助教（情）
⑥	芸･学 福永　桂子	9名 （国･学5名） （情･学2名） （芸･学2名）	LOVE & PEACE FESTIVAL	市民団体ピースキャンプの意図に賛同した市大生有志が、企画、運営する。「夏祭り」という親しみやすい環境の中で、宿泊者・市大生・地域住民との積極的な交流の場を提供する。国内、海外からの宿泊者に広島の文化を体感してもらい、平和について非言語的な意見交換の場をつくることを目的とする。	藁谷教授（芸） 大東和教授（国）
⑦	芸･学 濱永　由佳	4名 （芸･学3名） （芸･研1名）	温井ダム周辺地域活性化のためのサウンドアートプロジェクト	現在閑散とした状況にある温井ダム周辺を、開かれた観光地としての価値を高めるため、アートを利用して地域が魅力あるコンテンツを提供できるように、地元関係者と計画を進める。ダムの放水音、滝の音、カエルの声、電車や踏み切りの音などの環境音を再構築して、加計の町を肌で感じることのできるサウンドアートを制作し、町の内外をつなぐイベントを発信していく。９月から１０月を目安に紅葉の時期に行い、夜間であればライトアップ、日中は霧のスクリーンなど、サブプログラムも用意する。	南教授(芸) 吉田教授(芸)
⑧	芸･研 佐々木　圭司	7名 （芸･研3名） （外部3名）	すきまあーと・プロジェクト	広島市中区えびす通り商店街を会場とし、通りに面する店舗のショウウィンドウ内、店舗の入口付近、壁面、アーケード空間、通りの路面、建物と建物の間の空間などを都市の「すきま」と捉え、「すきま」を見つけてアートを設置する。設置する作品は実施学生の作品及び、小学生の子どもたちによる「街のオブジェ（仮題）、自転車オブジェ（仮題）」をワークショップ形式で制作する。	鰕澤教授（芸）

平成20年度　学生による社会貢献型自主プロジェクト事業の採択状況一覧

申請件数　9件

採択件数　5件(以下のとおり)

区分	申請者 （代表者）	実施学生	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
①	国・学 宮原　依里	２名 （国･学）	地域日本語教室への日本語支援	沼田公民館、広島国際センターにおいて、日本語教室（ボランティア）で日本語指導を行う。	岩田講師（国）
②	情・学 位田　耕基	１３名 （情･研）	第2回　パソコン出前なんでも相談室	中高生、主婦、高齢者又は障害者などのパソコン初心者を対象として、地域の公的な施設に出向き、パソコン相談室を開催する。数名の相談員が、各種の相談に応じ、必要に応じてパソコンによるデモを行いながら、パソコンの便利な活用法や問題解決等のアドバイスを行う。	小林教授（情） 齋藤助教（情）
③	芸・学 廣岡美佐子	９名 （芸･学　6名） （情･学　1名） （国･学　2名）	ＴＨＡＮＫＳ５１プロジェクト（広島市民球場をテーマとしたドキュメンタリー制作とその発表とともに行う展覧会）	① ドキュメンタリー制作 ２００８年がラストイヤーにあたる広島市民球場を扱ったドキュメンタリー（40分～60分）制作を行う。 ②　ＴＨＡＮＫＳ５１作品展 カープの新球場への移転に合わせて２００９年３月に、まちづくり市民交流プラザ（広島市中区）で作品展を行う。ドキュメンタリーの発表を行うとともに、市立大学の学生（約２０人）が「ありがとう市民球場～新球場につなげる想い」というテーマのもと制作する作品（表現方法は自由）を発表展示する。	中嶋教授（芸） 曾根准教授（国）
④	芸・学 平岩　沙織	５名 （芸･学3名） （情･学1名） （国･学1名） その他計8～10名	被爆体験者の証言を残すためのドキュメンタリー制作	（財）広島平和文化センターと連携し、 ① 被爆体験者の証言活動の撮影 ② 直接被爆体験者の方に証言を聞いての撮影 ③ 平和公園等の撮影 を行い、発表する。	中嶋教授（芸）
⑤	芸･研 黒田　大祐	６名　他 （芸･研）	川辺のアートプロジェクトによる、市民の芸術的交流の場の創出と、水辺の賑わいづくり	2008年10月18～19日、広島市中区空鞘橋東詰基町環境護岸において、彫刻専攻の学生によるテント型作品の設置と、これを中心としたアートイベントを開催する。アートイベントでは、絵画、彫刻の作品展示のほか、ダンスやコンサート等の催し、子ども向けワークショップを予定。 （広島市の「水の都ひろしま」構想に沿った取組みとして実施。）	伊東教授（芸）

平成19年度　学生による社会貢献型自主プロジェクト事業の採択状況一覧

申請件数　11件
採択件数　11件(以下のとおり)

区分	申請者 （代表者）	実施学生	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
①	国・学 時澤　典子	7名 （国･学）	開発と環境 フィリピンでの植林活動と社会調査	森林の伐採が進むフィリピンにおいて、植林活動、政府機関へのインタビュー等の調査を行う。帰国後、フィリピンの状況や日本の状況について、市民を対象に研究報告会を開催する。	中島教授（国）
②	情・研 坂谷　健治	17名 （情･研）	パソコン出前なんで相談室 （初心者対象）	地域の公的な施設（公民館、集会所など）へ出向き、パソコン初心者を対象に、パソコン相談室を開設する。 ・開催回数：今秋３～５回程度（各回1.5時間） ・相談員数：各回３～５人程度	小林教授（情） 齋藤助教（情）
③	芸・研 山本　桂子	6名 （芸･学　3名） （芸･研　3名）	五日市コイン通り「金持神に会える街」の金持神モニュメントの整備	コイン通りの活性化のため、造幣局にちなんだ「金持神モニュメント」（１０体前後）を整備する。（平成２０年３月設置完了予定）	南教授（芸） 吉田准教授（芸）
④	情・学 小原　一樹	3名 （情･学）	電子自治体構築において、ＯＳＳを活用する汎用ソフトウェア・アーキテクチャの設計	経済性・汎用性の高いＯＳＳを活用するソフトウェアの基盤のアーキテクチャ設計を、広島市情報政策課職員と共同で実施し、試験的にその一部を実装する。	双紙准教授（情）
⑤	芸･学 沖中　志帆	2名 （芸･学）	広島の折鶴について	次の組み合わせによる、映像又はパフォーマンスの表現行為。 1 小学生に対して折鶴に関するレクチャーを行った上で、ワークショップとして折鶴を折る動作をパントマイムのように行う）。 2 旧日本銀行広島支店に保管されている折鶴を撮影する。 今年度の卒業制作の作品として、折鶴を折る動作をパントマイムのように行い、平和を願うとき、私たちは何か大切なことを見失っていないかを考える。	柳教授（芸）
⑥	芸･研 土井　満治	2名 （芸･研）	８月６日通り（仮称）歩道縁石のデザインと実制作	８月６日通り（元安川左岸の原爆ドーム横の通り）の歩道整備について、中区土木課からの依頼（委託）受け、本学芸術学部で縁石のデザインと実制作を行う。	吉田准教授（芸）
⑦	芸･学 宮丸　翔子	2名 （芸･学）	アートによる地域振興を考えるフォーラム	旧中工場アートプロジェクトの会場の一つとなった吉島公民館において、アートによる地域振興を考えるフォーラムを開催する。 ・開催回数：６回（１０月６日～３月１日の間）	加治屋准教授(芸)
⑧	芸･学 衣笠木乃美	2名 （芸･学）	ビニール袋を再利用したエコロジカルなアート作品を市民参加で制作するワークショップ	ビニール袋を再利用して造花のアート作品をつくるアーティスト丸山純子さんの監修の下、市民参加のワークショップを開催する。 ・開催日：８月１８日・１９日 ・会　場：吉島福祉センター	今井非常勤助教 （芸）
⑨	芸･学 沖中　志帆	4名 （芸･学）	地域再生アートプロジェクト	富山県氷見市で毎年行われている地域再生のアートプロジェクト「ヒミング」の学生主体プロジェクト「氷見サマーアートスクール」に参加し、他大学と共同でフィールドワークを行い、映像作品を制作する。（９／１～９／９）	柳准教授（芸）
⑩	芸･研 鹿田　義彦	3名 （芸･研）	国際交流により、都市の問題を考えるプロジェクト	本学とバイセンゼー大学との交流事業であるアートプロジェクト「Hiroshima Art Project 2007-2008 CAMP BERLIN - HIROSHIMA」において、ベルリンと広島の両都市の国際交流により、それぞれの都市問題を交換するイベントを行う。（１１／３アリスガーデン）	鰕澤准教授（芸）

⑪	芸･研 鹿田　義彦	５名 芸･学　２名 芸･研　３名	広島とベルリンの都市問題交換プロジェクト	本学とバイセンゼー大学との交流事業であるアートプロジェクト「Hiroshima　Art　Project 2007-2008 CAMP BERLIN - HIROSHIMA」の企画の一つ＜プレイベント・ワークショップ＞を本学のオープンキャンパスで実施する。（８／８　本学）	大井教授(芸)